

## 一括定額運賃(1000円タクシー)制度の導入について

これまで、地域公共交通会議の中におけるタクシーの役割はデマンド交通とタクシー券の二つに限られていました。

ところが、令和2年11月に一括定額運賃制度が認められ、その中で「利用回数の上限を定めない乗り放題については、損失が発生した場合の地方公共団体等の第三者による補填が保障される場合又は実証実験の結果等により損失がない又は軽微であることが立証される場合に認めるものとする」とし自治体との連携による運行が制度化されました。これにより、従来のデマンド交通とタクシー券の他に新たな選択肢として同制度が加わることとなりました。しかしながら、未だに多くの自治体に知られていません。

一括定額運賃の最大の特徴は、デマンド交通が乗合であるのに対して一括定額運賃はタクシーであること、及びデマンド交通に比べて自治体の負担が最小で済むことです。

水戸市は令和3年4月より一括定額運賃として認可される

### 《一括定額運賃の概要》

- ・閑散時間帯に限定 → 一括定額運賃制度の下に運行(最初の半年は要実証実験)  
→ 閑散時間帯は地域によって異なります
- ・事業形態は乗合ではなく、あくまでも乗用(タクシー)…友人との乗り合わせは可
- ・デマンド交通と比して、市の財政負担が大きく軽減される→持続可能な公共交通の実現  
→ 過去に、かすみがうら市で9年間デマンドを続けて2億円の赤字になったので止めると表明している  
《参考》 年間費用 つくば市 デマンド1億6千万円、水戸市 1000円タクシー4千万円
- ・利用者が増えれば増えるほど市の負担は軽減されていく(費用対効果)  
→ しかも、デマンドのようなシステム導入費用、オペレーター(人件費)代、メンテナンス費用等は一切発生しない
- ・市全体だけではなく、市の一部(交通空白地域)に限定して導入することも可能
- ・年齢制限を設けることが可能 → デマンド交通は原則、誰でも乗れなければならない  
→ これにより利用者数から予算を逆算することが可能
- ・片道1000円(一括定額運賃)は住民に分かりやすい(タクシーを安く利用できる)ので利用しやすい  
→ 利用者は電話で「1000円タクシーお願いします」と言うだけでOK  
→ 市役所においても、事前登録などを必要とせず、事務方の負担は生じない  
事業主体は自治体、運行主体は事業者と役割を明確に分けている

- ・免許返納の呼び水になる(手軽な料金で移動が可能となるため)

→利用者としては「一定の時間、タクシーを安く利用出来る」イメージ

- ・導入にあたっては市内のタクシー事業者を交えて検討する必要がある

→事業者の選定

→既存の鉄道・バス・タクシーに影響を与えないように指定目的地を定めることが可能

- ・片道1000円が高いか安いかにについては個人差があるが、利用者からは概ね「安い」との評判(デマンドが乗合であるのに対し、一括定額運賃は貸切なのですぐに目的地へ行ける)

→一部では「公共交通を自治体が負担するのは当たり前だ」との意見もあるが、一定の受益者負担は必要(自治体としても公共交通だけに予算を掛けられない)

ちなみに、水戸市ではバスとタクシーの中間のイメージで千円とした模様

- ・デマンドで上手く回っている自治体はそのままでもいいと思われるが、新たな地域交通を模索している自治体には検討の余地があるものと思料

- ・一括定額運賃を導入するにあたり、注意する点は既存のバスやタクシーに影響を与えないこと

最初の半年間は実証実験なので、その間にバスやタクシーに影響が見られる場合には指定目的地の設定を検討することとなる(しかし、余り限定してしまうと利用率は下がる)

ただし、利用者の大半は高齢者が多い傾向にあり、そもそもバスを使わない方が多い